



市では、平成20年から平成25年までの6年間に、「転倒・転落」による救急搬送が1,506件発生しました。これは、救急搬送全体の約30%を占めています。特に、乳幼児と高齢者の救急搬送が多くなっています【図】。

# 自宅での転倒・転落事故を減らそう！

市では、世界基準の安心・安全なまちづくりを進める都市として、セーフコミュニティの国際認証を取得しました。今回は、転倒・転落事故についての情報をご紹介します。



写真 踏みつけ板の設置

転倒・転落の発生場所は、乳幼児、高齢者に共通して、自宅が最も多く、玄関や階段、居間などの段差の多い場所での発生が多いことがわかっています。こうした自宅内での転倒事故を予防するためには、段差をなくすることが有効です【写真】。高齢者、子どもの安全対策委員会では、高齢者の転倒予防対策や、子どものケガの応急処置法などを掲載したリーフレットを作成しました。関係窓口などで配布するほか、市HPに掲載しますので、ご活用ください。問 危機管理課 ☎ 22-2206

転倒・転落の発生場所は、乳幼児、高齢者に共通して、自宅が最も多く、玄関や階段、居間などの段差の多い場所での発生が多いことがわかっています。こうした自宅内での転倒事故を予防するためには、段差をなくすることが有効です【写真】。高齢者、子どもの安全対策委員会では、高齢者の転倒予防対策や、子どものケガの応急処置法などを掲載したリーフレットを作成しました。関係窓口などで配布するほか、市HPに掲載しますので、ご活用ください。問 危機管理課 ☎ 22-2206



まち歩きをしている様子

車いす体験乗車会を開催  
3月22日、秩父市老人クラブ連合会秩父支部主催の車いす体験乗車会を開催しました。今回は、老人クラブや社会福祉協議会、市職員など約30人が参加しました。参加者は4班に分かれ、交代で車いすに乗車しながら、まちのなかを巡り、徒歩とは違う視点で安全点検を行いました。点検後は、班ごとにワークシヨップ形式で、実際に車いすに乗って感じたことや、具体的な危険箇所等について意見を出し合いながら地図にまとめ、発表を行いました。発表者からは、



ワークショップで作成した地図の発表の様子

- ・砂利道の走行は難しい
- ・道が狭く車とすれ違う際怖い
- ・踏切を通る際に線路に車輪が挟まってしまう
- ・車いすでは通りづらい段差がある

などの意見があり、地図や写真などで確認しながら情報共有を図りました。

実際に車いすに乗り、普段と違う視点から、点検することで、普段は何気なく見過ごしている危険に気づくとともに、地図にすることで情報を共有し、安全意識を高める機会となりました。

問 秩父市社会福祉協議会  
☎ 22-1514  
危機管理課 ☎ 22-2206